

みつなかオペラ《清教徒》

みつなかオペラ（川西市民オペラ）はベツリーニ・シリーズの第2弾として《清教徒》を原語上演したが、ダブル・キャストの第2日を観た。アントニオ・マストロマッティの舞台装置が場面転換をスムーズにした堅実なもので、井原広樹の演出も無理のないものだし、キャストも超高音を求められるアルトゥーロ（中川正崇）を筆頭に音程的には端正な歌い手が揃っていた。ヴァルトン（松森治）、ジオルジョ（渡邊寛智）、エンリケッタ（西村薫）、ブルーノ（清原邦仁）はそれぞれの役柄を適正に表現していたが、アルトゥーロには高音が出るだけでない表情の豊かさを、リツカルド（西尾岳史）にも豊かな声量の中に多彩なニュアンスを求めたい。最も魅力的だったのはヒロインのエルヴィーラ（老田裕子）で、威勢が良いばかりで音量のコントロールにも欠ける牧村邦彦の指揮に対する不満を忘れさせてくれるほどの名唱であった。オーケストラはザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団、合唱はみつなかオペラ合唱団。（9月21日・みつなかホール）